

知ってますか

技術の

あれこれ

19

東日本大震災に思う(2)

三浦梅園と條理学

三浦 基弘

MIURA Motohiro

元大東文化大学講師

土木学会100周年記念誌編集委員



カントと同時代の三浦梅園

♪ デカンショ デカンショで 半年暮らす アヨ
イヨイ あとの半年寝て暮らす ヨーオイ ヨーオイ
デッカショ ・ ・ ・

この「デカンショ節」は、兵庫県篠山市を中心^{ささやま}に伝承する盆踊りの地方民謡であり、学生歌としても歌われた。この民謡は学生歌としての経歴を持つことから、掛け声の「デカンショ」は、「デカルト」、「カント」、「ショーペンハウエル」の略だとする、よく知られた説がある。ショーペンハウエルはインド哲学思想に関



図-1 三浦梅園肖像画 梅園が見つめている図面は『贅語』中の「連環図」で、地球と太陽と二つの中心を持つ宇宙図（画：田邊文窓 賛：由良箕山 三浦梅園資料館提供）

心があり、学生に人気があった。

1755年のリスボンの大地震で苦悩したカントは1724年に生まれた。その前年、豊後杵築（大分県国東市安岐町）に三浦梅園（図-1）が生まれている。

私事で恐縮だが学生時代、『三浦梅園集』（三枝博音編 岩波書店）の文庫本を読んだ。編者の序文に「……梅園の哲学を理解するには『玄語』によらねばならぬのは当然であるが、この書は大冊であるうえに、それが漢文である……。幸いなことに梅園は『玄語』の要^{げんご}点を和文でもって解り易く書いた。それが『多賀墨卿^{たがぼっけい}君にこたふる書』なのである。手ごろな梅園集が編まれるならば、何は措いても先ずこれがとりあげられねばならない」とあった。編者は読者に比較的やさしいテキストを用意してくれたのであるが、筆者の力不足で梅園の「條理学」を理解することができず、挫折した。それからほぼ40年の星霜を経て、梅園の哲学に近づける機会があった。

麻田剛立との出会い

かつて筆者の勤務する高校で都民に向けた都立学校公開講座を開く機会があった。仲間と相談した結果、都市工学科の基礎科目のひとつである「測量」のことを都民に紹介しようということになった。題して「伊能忠敬から学ぶもの はかることの意味」。2003年のことだった。筆者はこの機会に測量学の歴史を系統的に調べた。麻田剛立のことを調査中、『麻田剛立』（末中哲夫監修・著 宮島一彦・鹿毛敏夫著 大分教育委